

## ■第1回賛助会員企業訪問

### (株)エーアンドエム

会員交流委員会と賛助会員の会にて企画された「賛助会員インフォメーションの会—企業訪問」の第1回が去る2月20日、(株)エーアンドエムにて開催されました。

賛助会員から正会員に対するアピールの一環として以前から懸案になっていた行事だけに皆様の期待も多く、千葉県市川市という立地にもかかわらず25名という多数の方々に参加されました。参加者のうち正会員が60%と、正会員の方々の関心の深さがうかがえました。

インテリアにおけるアートワークを生業としている(株)エーアンドエムにとっては、説明の難しい分野であるが故にまたとない機会でした。折りよく検収前の壁画(キャンバス)が壁面に貼ってあり、実際の作業風景、原寸大の実物サンプル、デザインプロセスの紹介等、プランされ

る方々にとって、よりリアリティを感じて頂けたのではないのでしょうか。

作り手からの新しい情報は見ていただくことによって強くインプットされるのだと実感いたしました。

実際に絵具を使ってのペイントマジックの実演では、さすがプロ、玄人はだしで傑作が生まれ、つつい夢中になり、楽しさも最高潮に達しました。

また、絵筆を使わなくても可能な表現方法には“目からうろこ”の感があったのではないのでしょうか。

その後、懇親会へと進み、スライドを見ながら和やかな中にもそれぞれ忌憚のない意見が飛び交い、情報交換の本当の意義を知る上で大変有意義な会になりました。インテリアプランナーと実際に生産に携わる賛助会員とのコミュニケーションの深さが仕事を遂行させる上で合理的かつ的確な方法につながることに信じております。

第1回目としてはまずまずの成功だと



思います。このまま2回、3回と続いていくことを切に望みます。

第1回目ということもあり、会員交流委員会委員長の志村美治さん、副委員長の松澤敏高さんの献身的なご協力に感謝致します。とともに賛助会員の会的那須勝三さん、真木マリさんのご尽力にも御礼申し上げます。出席された皆様、本当にありがとうございました。

次回も多数の皆様の参加を期待しております。

(株)エーアンドエム 林 まりこ

## ■連載 色彩とインテリア ④

ディックカラー&デザイン(株) 森田良子

「色彩とインテリア」4回目の今回は、「キッチン」のカラーコーディネートについてお伝えしましょう。

キッチンはいうまでもなく「料理をする場所」ですが、最近では「食を中心に家族が集う場所」としてとらえて、リビング・ダイニング・キッチンを一体化した食空間づくりが注目されています。

自分の子供時代を振り返ってみても、学校から帰ってまず最初に行くのがキッチンで、そこで夕食の支度をする母の背中に向かって学校での出来事をあれこれと話していた記憶があります。

共働き・少子化・高齢化など家族形態が多様になった現代でも、家族がテーブルを囲み食事をするのは生活の基本です。

キッチンがダイニングやリビングと一体化されていくと、「見ても恥ずかしくないキッチン」にするため、機能面では収納を多くする必然性が生まれました。

そしてコーディネート面ではキッチン単体で考えるのではなく、リビングとつながりを持たせる必要があります。

以前、国内外キッチンメーカーのドアパネルの色について調査をしたのですが、最も多かったのが木目調、次いで白・クリーム色が多く、その他にも赤・青・黄・緑・・・と実にカラーバリエーションが豊富で、多いところでは100色以上も取り揃えていました。

これだけ豊富なカラーを揃えるのも多様なリビングとのコーディネートを考えてのことでしょう。

色の特徴として、国内と海外では色の強さ(彩度)が大きく違います。海外メ

ーカーのものは白・黒・赤・青など発色のよい鮮やかな色が特徴で、国内メーカーは発色のよい赤・青・黄色に加え、柔らかいパステルカラーも多く取り揃えています。パステルカラーは、冷蔵庫・電子レンジなど家電製品とのコーディネートが難しいかもしれません。キッチンドアパネルのパステルイエローと冷蔵庫のイエローの色調が微妙に違う・・・ということにもなりかねません。また、最近では、冷蔵庫もプロの厨房を意識したステンレスが人気とか。

実際生活をしているとキッチンは食器や食品・家電製品の色であふれています。

キッチンの空間自体をステンレスと白や木目を使ったシンプルなコーディネートにすると、どんなリビングとつながっても違和感のない「見せるキッチン」ができるのではないのでしょうか。

## ■第9回通常総会・講演会・交流会

### 開催のご案内

来る5月30日(金)17時より、東京デザインセンター地下2階「ガレリアホール」にて、第9回通常総会を開催いたします。また、総会に続き、講演会と交流会も開催いたしますので、会員の皆様には奮ってご参加いただきますようご案内申し上げます。

#### 1. 総会

平成14年度のJIPAT全体としての活動や各委員会の活動、収支決算、監査などの報告、並びに平成15年度の活動計画、収支予算などが審議される予定です。

また、日本インテリアプランナー協会協議会(JIPA)の活動、IPEC21-2002及び2003関連や、賛助会員の会の活動、JIPAT設立10周年記念事業企画、など

の報告が予定されています。

#### 2. 講演会

風水分析設計(ジオマンシア・プランナー)の岡田 忠氏を講師にお招きし、「空間生命線としての風水デザイン」と題して風水分析設計の視点から見た空間デザインについてお話をいただきます。

岡田氏は建築・インテリアの設計活動において各種のデザイン賞(第1回インテリアプランニング賞特別賞、商環境デザイン賞優秀賞、世界建築博覧会建築トリエンナーレ国際建築デザインコンペ入賞など多数)を受賞されるなど優れたデザイン活動をしてこられ、同時に風水分析設計に関する調査・研究や、国内外の数々のプロジェクトにおいて風水設計のプロデュースを担ってこられました。

興味深いお話がいただけるものと思います。乞うご期待を。

#### 3. 交流会

各種ワインと軽いおつまみをご用意し、参加される官庁・関連団体・他地域IP協会の方々や会員相互の交流・懇親の場として毎回好評を博しています。

#### 4. セミナービデオ展

ニューインプレッション

JIPATが開催した各セミナーのプロモーションビデオをガレリアホール中2階にて放映し、あわせて映像配信システムを紹介いたします。また、JIPAT賛助会員企業のカatalogを展示・配布いたします。(19:00~19:20)

この機会に是非ご参加をいただきますようお願い申し上げます。

(総務委員会 委員長 濱 弘美)

## ■IP法律セミナー

### 「知的財産の基礎知識」

講師：弁護士 中園繁克氏

3月19日、総務委員会の主催による第1回目のIP法律セミナーが開催された。テーマは「知的財産の基礎知識—インテリアビジネスをめぐるデザインの権利と侵害」、講師は弁護士・関東法律事務所代表の中園繁克氏。



私たちの日常業務と深い係わりのある「知的財産権」がテーマということもあり、また会員の皆様とお会いできるのを楽しみにセミナーに出席した。

セミナーの要旨は以下の通りである。

#### 1. 資本主義の発展は絶えざる創造にある。

知的財産権が認められるようになったのは、資本主義の発生以降で、それ以前は物・土地等ハードの資産だけであった。

そもそも資本主義の発展は絶えざる創造にある。勤勉に働けば自ずと財が増えてくる。人の要求する物を作って利益を得る。人間は、武力→財力→知力の経過をたどりながら、既成の物を争ってきた。

知的財産権では、所有している人の権利を尊重するが、独り占めと公に利用す

ることとの調整が必要となる。著作権（コピーライト）に時間的な制約を加え、創作時より著作者の死後50年間とされているのもその一つ。

#### 2. 知的財産権は色々ある。

情報は色々伝播されるが減るものではなく、同時に多くの人々が利用できる。

では、創作に対してはどう評価するか。それは作った人のものである。

著作物とは思想または感情を創作的に表現したもので、文芸・学術・美術・音楽の範囲に属するものをいう。

創作されたものが市場に出た際にこれを権利として守る。

これらの中には、①発明（自然法則を利用した技術的思想の創作のうち高度のもの）、②考案（自然法則を利用した技術的思想の創作）、③意匠・著作等が含まれ、特許法をはじめ、実用新案法、意匠法、著作権法、不正競争防止法等で保護される。

#### 3. 著作権は創作的に表現された知的・精神的活動の所産

著作権法では、著作物並びに実演・レコード・放送及び有線放送に関し、著作者の権利及びこれに隣接する権利を定め、これらの文化的所産の公正な利用に留意しつつ著作者等の権利の保護を図り、もって文化の発展に寄与することを目的としている。



真に著作者の権利を守り、文化的所産の公正な利用、この辺りは大変意義深いものがあり、特に先生の表題の知的・精神的活動の所産といったなかに奥深い意義を感じる。

建築における著作物には、「建築物(建物)そのもの」と「図面の著作物」があり、プレゼン等で建築物の写真を借用するにも、その取り扱い(表現)によっては色々問題が生じることもある。

#### 4. 著作権は自ら守る。

以上、講義を聴いて、著作権とは私たちの創作活動に対して創造性の大切さ、先人の知的資産を尊重し、粗末な扱いはしないこと、その心掛けが自分の著作権を守ることにつながるのではないかと考えた。

当日は、久しぶりに大学の講義を受けたような崇高な気分にさせてもらった。

(野澤 守)

## ■委員会報告

### 賛助会員の会

第8回賛助会員の会全体会議が4月3日18時30分より、(株)三越の大手町別館3階会議室にて行われた。

賛助会員38社43名、正会員14名、オブザーバーとしてデルファイ研究所から3名という多数の方に出席いただき、活気ある会議であった。

まず、代表幹事である藤本文明氏から挨拶があり、続いて議長選出が行われ、稲川達雄氏が選出された。この後、稲川氏の議事進行により以下の報告、説明等がなされた。

- JIPAT中川誠一会長挨拶
- 幹事会報告(藤本氏)
- 各委員会活動報告(各委員会委員長)
- IPEC21-2003について

会議終了後は、懇親会が行われた。

## ■新製品紹介

### 日本ハンター・ダグラス(株)

#### 【シルエット・シェード防炎タイプ】

今、もっとも進んだシェードの姿カーテンの優しさとブラインドの機能性を備えました

●秘密は、一枚の羽。光を自在にコントロールします。

ハンター・ダグラスが開発したシルエット・シェードは、その機能性と美しさで今までのシェードのイメージを一新する製品です。

まず、その構造のユニークさは、二枚のレースの間にブラインド状の布製の羽を持つこと。この羽を開閉することにより開ければ二重のレースがお部屋にやさしい光をお届けし、閉じればプライバシーを守ります。

一台でカーテンとブラインドの便利なダブル機能。ファブリック・シェードならではの高級感ある風合いをどうぞお楽しみ下さい。

●防炎タイプが新たに加わりました。

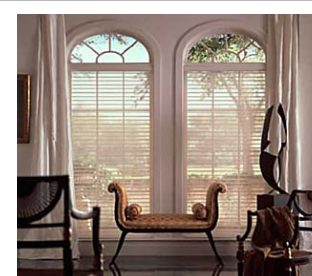
エレガントな“オリジナル・ファブリック”に加え、遮光タイプの“ボンソワール”リネンを思わせるカジュアルさが新鮮な“トゥジュール”、布の羽のリンクル加工がナチュラルでソフトな風合いをかもしだす“ナチュラル”をご用意しました。

また、商業施設や高層マンションにも使用できる“防炎タイプ”が新たに加わりました。

上質な空間を演出するソフトな色調が、さまざまなインテリアと上品に調和して、お部屋のグレードを高めます。

[問合せ先]

ウインドーファッション事業グループ  
http://www.hunterdouglas.jp  
TEL. 03-5762-4826



## ■編集後記

平成15年度第1回目のニュースレターを発行することができました。新しい年度を迎え、気持ちも新たに活動していきたいと思えます。そんな情報委員会に強力な新メンバーが加わりました。日本ハンター・ダグラス(株)の河原伸自さん、荒川技研工業(株)の比護太一さん、ダントー(株)の東海林吾一さんです。新メンバー共々よろしくお願い致します。(情報委員会 羽沢昌子)

■情報委員会では、「ニュースレター」のeメール配信を行っております。eメールによる配信をご希望される方はお名前、会社名、TEL・FAX番号、メールアドレスをご記入の上、事務局までFAXまたはeメールでお知らせください。